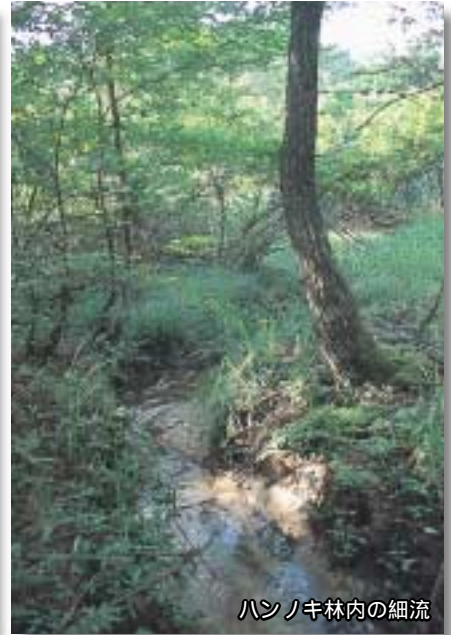


耳川上流の開拓地 - ハンノキ林・湿地 -



山ぎわにできた湧水湿地



ハンノキ林内の細流

選 定 理 由

- ・県レッドデータブック掲載種（県RDB種）（ヒラサナエ）の県内唯一の生息地である
- ・県RDB種が多種確認されている

県レッドデータブック掲載種数： 12種（面積約70ha）

自然の概要

山ぎわでしみ出した湧水が流れ込む放棄田は、所々で湿地状になっており、上流はハンノキ林になっています。ハンノキ林内の細流は、ヒラサナエ（トンボ類）の県内唯一の生息地であり、湿地にはモウセンゴケなどが生育しています。また、畦や山ぎわの草地にはリンドウやセンブリが生育しています。

保全すべき

主な環境

ハンノキ林、湧水湿地、草はら（草丈の短い畦や土手）

該当地の位置



里の生き物紹介 ヒラサナエ（トンボ目サナエトンボ科）

全長はオスが40.5～43mm、メスが36.5～39.5mmのサナエトンボで、県内では耳川上流の開拓地でしか確認されていません。生息地は、ハンノキなどの疎林を流れる砂底の小さな流れで、幼虫は、水際などの流れの穏やかな場所に堆積した砂泥に浅く潜り込んでいる様子が観察されています。ここでは多くの個体が見られますが、成虫は生息地の流れの周辺に限られています。

今後調査がすすんだとしても、生息地が多く見つかる可能性は低いいため、この場所の埋め立てや護岸、周辺林の伐採などは、県内の生息状況に大きく影響すると思われます。

保全すべき環境に生息・生育している生物



ヒラサナエ
県域絶滅危惧 類
生息地はハンノキなどの疎林を流れる砂底の細流



リンドウ
要注目
山野の日当たりの良い草地に生育



ハッチョウトンボ
要注目
日当たりのよい湧き水のある湿地や休耕田に生息



モウセンゴケ
要注目
日当たりの良い酸性湿地に生育



センブリ
山野の日当たりの良い草地に生育